

暮らしやすい街へ

“狭あい道路”や“行き止まり道路”と向き合う

コミ協の街づくり部会では、なれ親しんだ街を新しい知恵や取組で、より良い街になるよう話し合いを進めています。その中で、注目しているのは「道路」です。

先日、コミ協を主体とした勉強会を開催し、“狭あい道路”や“行き止まり道路”の街をより快適に暮らす解決策について話し合いました。

※ここでは“狭あい道路”を、主に幅員4m未満の道路とします。

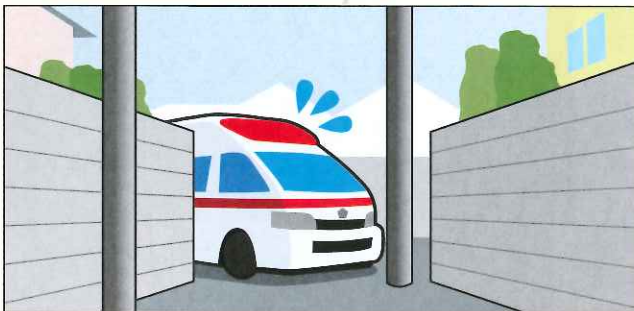


現状

- ・ 地区の道路は幅が狭く、行き止まりがある
- ・ 電柱が立っていたり、側溝に蓋がなかったり、実際に使用できる道の幅が狭い
- ・ 高い塀が並んでいると圧迫感を感じる
- ・ 狭あい道路、行き止まり道路の多くが私道である

問題点

- ・ 地震や火災、局地的な豪雨などが発生した場合、避難路が確保しにくい
- ・ 消防・救急など緊急車両及び除雪車の進入が困難な場合がある
- ・ 歩行者の安全・安心を十分に確保しにくい
- ・ 私道が壊れた場合、個人または地元が修繕しなければならない



緊急路や避難路が確保しにくい



歩行者の安全・安心を十分に確保しにくい

方針

- ・ 宅地を削って道路を広げたりするのは現実的ではない
- ・ 住民や地域でできることを考えていこう
- ・ 解決のイメージを知ってもらおう



安全・安心の街づくりを進めるためには、
住民・地域・行政の連携や共に考えていく取組が必要!



住民・地域・行政の連携イメージ

解決のイメージ



1 ブロック塀を改修して見た目を良くする



取組

- ・高さのあるブロック塀を生垣や竹垣などにする。

効果

- ・道路の圧迫感を減らすことができます。
- ・防犯上の安全性が高まります（生垣）。
- ・大地震発生時に塀が倒れる危険もなく、避難路として使うことができます（生垣）。

問題点

- ・改修される方に費用負担が発生します。
- ・改修後の維持管理も必要となります。

2 側溝に蓋をして使える幅を広くする



取組

- ・グレーチングなどで側溝に蓋をかける。

効果

- ・使える道路の幅が広がります。
- ・見た目も道路が広く感じます。

問題点

- ・側溝清掃などでは蓋を持ち上げる必要があります。
- ・突発的な大雨では道路を水が走ります。
- ・雪を捨てる場所が少なくなります。



3 電柱の移設を検討する



取組

- ・電柱を邪魔にならないところに移設したり、集約して数を減らしたり、宅地の中に移設したりする。

効果

- ・道路本来の幅を使うことができるようになります。

問題点

- ・電柱の所有者（東北電力、NTTなど）と協議し、移設できるかどうか検討が必要です。
- ・私道の電柱を移設する場合、お金がかかります。

4 空地进行を借りて回転場などとして使う



取組

- ・行き止まり道路の奥に空地がある場合、車両回転場として整備します。
- ・空地进行をポケットパークや防災拠点にする方法もあります。

効果

- ・車の利便性が大きく向上します。
- ・ポケットパークなどでは、住民の憩いの場となります。

問題点

- ・利用される方の費用負担が発生します。
- ・ポケットパークなどでは、維持管理が必要です。

第1回勉強会での話し合い結果 (平成26年10月14日(火))

平成26年10月14日(火)に、街づくり部会の勉強会を開催しました。ここでは、“狭あい道路”や“行き止まり道路”の街をより快適に暮らすための方法について話し合いました。

出された意見

- ・ 生垣にするだけでなく、塀の高さを下げたり、竹垣にしたりするなど、様々な方法があるのでは？
- ・ 私道についても市の補助があるとよい。
- ・ 各自治会や道路の事情に合わせて対策を検討する方がよい。
- ・ 側溝にフタをするならグレーチングなど軽量の物の方がよい。
- ・ 排雪など雪への対策も検討すべき。
- ・ 現状、地区内のどこにどのような電柱があるのか把握できていない。モデル地区を選定し調査を行う必要があるのでは？
- ・ 電柱の移設は、事業者の都合もあるので容易ではない。



写真：勉強会の様子

**より良い街づくりに向けて** (これからの課題)

- ・ 住民と地域、行政の連携を深めます！
- ・ 全国の事例なども参考に、より良い街づくりの方法を研究します！
- ・ 解決策を実行するための制度を考え、費用負担のあり方を含め、行政に提案します！
- ・ 住民一人一人の問題意識が高まる取り組みを行います！

